

項目	検討の観点	内容の特色
① 内容の取り扱い	教育基本法との適合	取り上げる題材は、正義、社会への主体的な参画、平和、自然科学、環境、日本の伝統文化および他国の文化など、生徒の知的欲求に合致するものや人間性を涵養するものが幅広く選択されています。また、言語活動では、手紙、Eメール、テレビ番組など実生活に結びつく内容を扱い、取り組む生徒の個性が発揮されるようになっています。さらに、目標や学びのプロセスなどがわかりやすく提示されており、学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようになっています。
	教科用図書検定調査審議会の報告「教科書の改善について」との適合	質量面での格段の充実が図られ、自学自習できる内容が豊富であり、個に応じた指導を可能にする工夫がなされています。また、ほとんどのパートにQRコードが付され、英語学習において必要性の高い音声を提供されています。
	学習指導要領に対応した工夫、配慮 ①教育課程上の改訂 ②知識及び技能 ③思考力、判断力、表現力等 ④学びに向かう力、人間性等 ⑤主体的・対話的で深い学び	①小学校の外国語活動と外国語科の内容を踏まえ、言語活動の充実及び、小中高の接続が円滑に図られるよう配慮されており、教育課程上の改訂に対応しています。 ②基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、それらを実際のコミュニケーションにおいて活用できる力を、段階的に育成できる構成になっています。 ③習得から活用へという学びのプロセスの中で、提示された多様な題材と言語活動を通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、思考・判断・表現する力を養えるよう配慮されています。 ④目標、学びのプロセス、ポイントなどがわかりやすく提示され、学び意欲を喚起し、学びに向かう力が育成されるように工夫されています。 ⑤主体性を引き出したり、考えを広げたり深めたりできる多様な題材や言語活動を通して、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう配慮されています。
	教科の目標達成に必要な内容	聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことの言語活動を通して、「コミュニケーションを図る資質・能力」を確実に身につけられるように、内容が選択・配列されています。また、実際の使用に即した場面設定、興味を喚起する話題、他者と関わりながら進めていく活動が豊富に配置され、「コミュニケーションを図ろうとする態度」が育成できるような内容が盛り込まれています。さらに、言語や文化に関する題材が豊富で、外国語の学習を通じて、言語や文化について理解を深めることができるように配慮されています。
	日本の伝統文化と自然科学 →本冊pp.45-50	題材として、日本の伝統文化と自然科学がそれぞれの学年に配置されています。
	他教科、道徳、総合的な学習の時間との関連 →本冊p.57	学び、ことば、伝統文化(日本文化)、異文化理解、自然理解、社会理解、人間理解など、他教科、道徳、総合的な学習の時間との関連を意識した題材が取り上げられ、学習効果が上がるように工夫されています。また、本文や言語活動に、学習者と同学年の生徒たち(男女各3名)を登場させており、生徒の立場で教科書の登場人物とともに成長していけるように配慮されています。
	小中連携 →本冊pp.9-21	1年の導入のHello, Everyone!とStarterでは、小学校で体験した聞くこと・話すことの活動を受け、設定された場面や状況に応じて、自分のことや、日常生活に関する身近で簡単なことについて聞き取ったり、話したりします。また、1年Lesson 1~3では、聞くこと・話すことの活動から導入し、ターゲットの文法事項や文構造を含む文を取り出し、英文の類似点や相違点について問いかけをすることで、文法のルールや文構造について気づきを促し、明示的な整理や理解、練習へとつなげていきます。さらに、明示的に整理し理解した知識を活用しながら、初見の英文を読んだり、まとまりのある英文を書いたりすることで、活用する力を身につけることができます。
	中高連携 →本冊p.58	本文や言語活動などの分量も豊富で、USE Readなどでは長文を読む力、USE WriteやUSE Speakなどでは、まとまりのある英文を書いたり、発表したりする力が身につくように工夫されています。また、オーセンティックな場面での聞き取りや、即興での会話なども適宜配置され、5領域に渡ってバランスよく、確かな英語力が身につけられるようになっています。語彙については、学習指導要領に示された1,600~1,800語以外に、活動のそばに配置されたIdea Boxや巻末資料などにも多数提示されており、適宜活用できるようになっています。中学卒業後も英語学習を続けていけるように、What Can I Do?(CAN-DOリスト)やFor Self-studyなど、自律的な学習をサポートする資料が示されており、高等学校での英語学習に耐えうる学習スキルを身につけることができます。

② 内容の程度	生徒の発達段階への適合	言語材料・言語活動・題材について、1年から3年まで学年を追って難易度が徐々に上がっており、発達段階に適合した内容が選択・配列されています。
	言語材料の選択 ① 文構造・文法事項 ② 語彙 ③ 音声 →本冊p.8, 22, 54	①文構造・文法事項は基本的なものが選択され、3年間の学習の進捗や言語活動との関連を十分に踏まえて段階的に提示されています。 ②新語数は1,600～1,800語程度(1,642語)となっています。さまざまなコーパスをもとに、小学校で学習したとみなす語彙のうち基礎的かつ重要な語彙(281語)と、中学校で学習する語彙のうち基礎的かつ重要な語彙(601語)を取り出し、全ての中学生が卒業時まで身に付けてほしい発信語彙(882語)として、脚注や側注に太字で示されています。 ③音声に関しては、中学生に必要な基本的な項目が取り上げられており、Soundsを中心に1年から3年まで継続して配置されています。
	言語活動の選択	文構造・文法事項の定着を図る活動や実践的なコミュニケーション活動が、段階を踏んで選択・配列されています。活動の分量やタスクの内容も、学年の進行を踏まえて積み上げられるよう配慮されています。
	題材内容の選択 →本冊pp.45-50	題材内容は生徒の知的発達段階に十分な配慮がされており、適切です。学校や家庭、地域での生活など、身近で関心のある日常的なものから、環境や人権問題などの社会的なものまで、生徒の興味・関心に合った内容が選択されています。
	発展的な学習内容	3年において、発展的な学習内容(文法事項)が扱われており、意欲的に取り組む生徒への配慮がなされています。
③ 組織・配列	内容の組織・配列 →本冊pp.4-7	全体の構成が本編と付録に分かれ、本編はLesson, GET Plus, Take Action! Listen, Take Action! Talk, Reading for Fun, Reading for Information, Projectで構成されています。LessonとGET Plusでは、体系的や学習上の系統性を重視して、文構造・文法事項、重要な語句や表現が配置・配列され、3年間を通してコミュニケーションを図る資質・能力を身につけられるようになっていきます。Take Action! Listenでは、オーセンティックな場面で「聞き手が必要な情報」「話の全体的な内容(概要)」「話し手が伝えたいこと(要点)」を捉える活動に取り組み、Take Action! Talkでは、実際の生活で直面しそうな場面で使われる特有な表現や言語の働きの習得を目指しつつ、「相手とよい関係を築く」「議論を深める」「目的を達成する」ことを目的として、即興でやり取りする活動に取り組むことができるよう配慮されています。また、読むことについても、楽しみながら物語を読むReading for Funや、必要な情報を読み取るReading for Informationなどが配置され、バランスよく学習できるように工夫されています。学年に3回配置されているProjectは、直前の2, 3レッスンの総まとめとして、領域統合的な活動に取り組み、調べ学習や協働学習などを通して課題解決力を身につけられるよう工夫されています。
	言語材料の組織配列 ① 文構造・文法事項 ② 語彙 ③ 音声 ④ 文字 →本冊p.8, 11, 18-19, 22, 54	①文構造・文法事項は、各LessonのGET POINTに基本文として明示され、3年間の言語活動との関連を踏まえて、体系的かつ系統的に配列されています。POINTでは、既習文と比較したり、前文との関係を考えてたりできるように、それぞれの特徴に合わせて基本文が提示され、文構造や文法事項への気づきを促すことができるようになっていきます。また、「文法のまとめ」では、文構造や文法事項について整理したり、図解を活用しながら英語のしくみを確認したりできるように配慮されています。 ②語彙については、「発信語彙(601語)」「受容語彙(1,041語)」に区分して提示され、学習の目安となるように工夫されています。発信語彙は、小学校で学習したとみなす発信語彙(281語)と合わせて太字で提示し、1年から重点的にくり返し使用することで定着を図ることができるようになっていきます。また、DrillやWord Bank等では、関連のある語句がまとめて提示されており、言語活動を通して活用しながら習得できるように工夫されています。巻末の付録には、資料として「いろいろな単語」「単語の意味」が配置されており、語彙力を伸ばす工夫と、辞書の活用に向けて配慮されています。 ③音声の項目については、Soundsを設定し、1年から3年まで系統的に扱われています。音とつづりの関係についても、フォニックスを交えながら、系統的に配置されており、付録の「つづりと発音」で自学自習できるようになっています。 ④文字や符号の使い方については、1年のStarter 1, Lesson 1～3で、小学校での学びをふり振り返りながら、段階的に確認できるように配慮されています。

③ 組織・配列	<p>言語活動の組織・配列</p> <p>① 言語活動全体</p> <p>② 聞く活動</p> <p>③ 読む活動</p> <p>④ 話す [やり取り] 活動</p> <p>⑤ 話す [発表] 活動</p> <p>⑥ 書く活動</p> <p>→本冊pp.23-43</p>	<p>①各Lesson においては、GET Drill (新出の文構造・文法事項の意味を理解し、型に慣れる活動)、GET Listen / Talk & Write / Speak & Write (よりコミュニケーションな練習を通して新出の文構造・文法事項の型と意味を定着させる活動)、USE (実生活に通じるコンテキストに自分が主体的にかかわる中で、新出の文構造・文法や他の表現を適切に使っていく活動)と、段階的に5領域の言語活動が設定されています。また、Lessonの外には、Take Action! Listen / Talk, Reading for Fun / Information (聞くこと、話すこと [やり取り]、読むことの活動)、Project (領域統合的な活動) が設定され、言語材料の定着とともに4技能のバランスのとれた育成が図られるように配慮されています。USE Read / Write / Speak, Take Action! Listen / Talkは、学年を追って活動の深化が図られるようになっており、Projectがそれらのまとめの活動として配置されています。</p> <p>②1年の冒頭、小中接続期では、聞いたり、話したりすることから導入する構成になっています。また、各Lessonのとびら (導入のためのプレ活動のページ) では、オーラルイントロダクション、オーラルインタラクションなどの活動を通して導入ができるように工夫されています。Take Action! Listen では、まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を捉える力を身につけられるように配慮されています。</p> <p>③各Lessonには音読に適した本文が位置づけられています。また、まとまりのある文を読む力を身につけられるよう、1年Lesson 4以降、各LessonにUSE Readが設定され、1年から3年まで段階的に読む分量を増やしながらか、読む力を高められるように工夫されています。さらに、Reading for Fun / Information, 付録Further Readingなど、いろいろな読みの活動や素材が配置されています。</p> <p>④1年の冒頭、小中接続期では、聞いたり、話したりすることから導入する構成になっています。また、Take Action! Talkでは、「相手とよい関係を築く」「議論を深める」「目的を達成する」ことを目的として、即興でやり取りする活動を通して、言語の使用場面や言語の動きを意識しながら学ぶことができるよう配慮されています。</p> <p>⑤USE Speakには、スピーチやShow & Tell, プレゼンテーションなどの発表形式の活動が配置され、イントネーションやスピードなどの音声面と、アイコンタクトなどの態度面について、聞き手に効果的に伝えるためにはどうしたらよいか考えられるよう工夫されています。個別の音声については、Take Action! Listen / Talkに併設されたSoundsで取り組めるように配慮されています。</p> <p>⑥1年の冒頭、小中接続期では、小学校での学びをふり振り返りながら、文字を正確に書けるかどうか、また、手本を見ながら単語や文を書き写すことができるかどうか確認したり、手本を見ないで書くことへとつながるような構成となっています。また、USE Writeでは日記、手紙、Eメール、レポートなど様々なテキストタイプを扱い、まとまりのある英文を書く活動に取り組めるよう工夫されています。</p>
	<p>題材の組織配列</p> <p>→本冊pp.45-50</p>	<p>題材は、各学年とも、学び、ことば、伝統文化 (日本文化)、異文化理解、自然理解、社会理解、人間理解などのジャンルの話題がバランスよく配置され、生徒の知的発達段階に応じて工夫して取り上げ、配列してあります。</p>
④ 分量	<p>全体の分量</p>	<p>全体として、分量は学習・指導上で無理がないように精選されています。</p>
	<p>3年間で扱われる総語数、総新語数</p>	<p>本文総語数は約9,200語。学習対象の総新語数は1,642語、そのうちの601語を中学校で学ぶ発信語彙として設定しています。また、小学校で学習したとみなす語彙 (633語) のうち、281語を小学校で学ぶ発信語彙として設定しています。</p>
	<p>各パートの本文の分量</p>	<p>語数は、GET 部分では、1年40語、2年45語、3年50語程度、USE Read では、1年84~128語、2年139~223語、3年230~375語、Reading for Fun では1年198語、2年239~355語、3年336~473語で、学年に合わせ分量が効果的に調整されています。</p>
	<p>指導時数</p>	<p>指導時数のめやすは、1年110時間、2年103時間、3年100時間で、年間指導時数140時間の7割強となっており、余裕を持って指導できます。そのため、必要に応じて選択的な扱いの活動や読み物教材を取り上げることが可能です。</p>
	<p>活動の量</p>	<p>文構造・文法や基本表現など、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る活動から、より実践的な場面で知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力を養うための活動まで、十分に用意されています。</p>
<p>資料 (付録)</p> <p>→本冊p.55</p>	<p>巻末を中心に、各学年40~60ページ程度の資料が収録されており、コミュニケーション活動で利用できる語彙の補充、補充の読み物、文法・語彙・発音などの基礎的な知識の整理、リスニングの音声スクリプト、やり取りの表現例とロールプレイシートなど、本編と関連を持ちながら、活用度、資料性の高いものが豊富に揃えられ、授業や自学自習の場面で多様な使い方ができるようになっています。</p>	

⑤ コミュニケーション	言語の使用場面、 言語の働きの配置	Lesson, Take Action! Talk, GET Plusにおいて、多様な言語の使用場面、さまざまな言語の働きが扱われています。各Lessonの日本語リード文やイラスト、USEのタイトル、Take Action! Talkのタイトルやイラストで場面が明確に示されています。
	コミュニケーションを 支える文法の扱い	文法は、GETのDrill, Listen / Talk & Write / Speak & Write, USE Speak / Write, Projectなどの段階的な言語活動の中で活用することを通して、定着が図れるような構成になっています。
	5領域のバランスと 領域統合	1年の初期の段階から各Lessonにおいて、GET(習得)→USE(活用)のそれぞれの段階に応じた本文(「読む」と言語活動(「聞く」「話す」「書く」)を配置しており、5領域を総合的にバランスよく育成できるようになっています。また、複数の領域を使用するタスクが盛り込まれたUSE Read / Speak / Writeなどの活動と、各学年に3つのProject(領域統合型の言語活動)を配置し、5領域を統合的に使用する力を伸ばせるように配慮しています。
	ALTとの Team-Teaching授業 への対応	LessonやTake Action! Talk, GET Plusに対話文の本文が随所に配置されており、各Lessonの導入としてのプレ活動や、GET Listen / Talk & Write / Speak & Write, USEなどでのコミュニケーション活動も多く、Team-Teachingをしやすい内容になっています。さらに、異文化理解の題材が豊富で、ALTの出身国を話題にしたリアルなコミュニケーションにつながりやすい内容になっています。
⑥ ユニバーサルデザイン (デザイン・レイアウト、活字・書体、さし絵・写真・図版等)	ユニバーサルデザイン →本冊p.53	専門家の校閲により、能力そして性別などの違いに関係なく、多くの人達が利用しやすいデザインになっています。デザイン面だけでなく、教科書の本文および活動の内容についても、学習上の支障がないように配慮されています。
	紙面構成	GET(習得)、USE(活用)といった各ページの役割や、聞くこと、読むこと、話すこと(発表とやり取り)、書くことの領域が明確になるように紙面デザインに工夫があり、見やすくわかりやすい。また、各コーナーは囲みなどを施し、他との区別が明確になるように配慮されています。言語活動において、スモールステップで活動の内容を示すモデルが示されており、必要に応じて書き込みのスペースが確保されています。
	色覚特性 →本冊p.53	紙面全体やグラフ・地図などの図版、および文字・記号などについて、色の組み合わせや濃淡などの工夫や、罫線や記号、番号や文字などの補助があり、カラーユニバーサルデザインに配慮した紙面になっています。
	活字の大きさや 書体(フォント) →本冊p.53	文字の大きさと行間は読むのに適切なものになっており、読みやすい。1年の冒頭では、書くためのモデルとなるフォント(小学校で慣れ親しんだ4線上に載せた手書き風の文字)が使用されており、中学校での学びにスムーズに接続できるように配慮されています。また、可読性と視認性が高いユニバーサルデザイン書体やゴシック系フォントが使われており、学習がしやすくなっています。
	さし絵	英文の場面設定を補足するためのさし絵が効果的に配置されています。登場人物が生き生きと描かれており、生徒の学習意欲を喚起するとともに、内容理解にも役立つものになっています。
	写真、図版	本文の内容理解に資する写真が、豊富にかつ適切に配置されています。いずれも資料性が高く、生徒の興味・関心を高めるのに効果的です。図版も見やすく正確で、生徒の理解を促進するものになっています。
	QRコード(二次元コード) ※[QRコード]は デンソーウェーブの 登録商標です。 →本冊p.52	3学年で170箇所以上(見開きページに1つ)にQRコードが配置され、本文や語句の音声に加えて、聞くことや話すことのモデルとなる動画や、学びを深めるためのデジタルコンテンツが用意されており、5領域の力を総合的に伸ばすことができます。
⑦ その他	情報化への対応 →本冊p.59	各種デバイスに対応したデジタル教科書(教材)が用意されており、スピード等が工夫された臨場感のある音声や、題材に関連した海外の資料映像、発音の口形動画、チャッツなどが提供されており、効果的な指導・学習が行えるようになっている。また、音声CDが用意されており、ICT環境がない学校や家庭でも必要に応じた音声指導ができます。
	評価への対応	各学年の巻末に、その学年までの学習を通してできるようになってほしいこと(CAN-DOリスト)があり、各学年の到達目標が明確に示されています。また、生徒自身がこれを活用することで、自ら目標を設定したり、自身の英語力を確認したりしながら学習を進めることができます。
	印刷・製本	印刷はとても鮮明で、カラーの写真・さし絵も含め、きわめて美しく仕上げられています。紙も白色度の高すぎないものが使用されており、見やすい。製本は堅牢で、長期間の使用に耐えられるものとなっています。
	用紙・インキ	環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した、環境にやさしい用紙と植物油インキを使用しています。